

5月2日(金)、本誌 第6回 優秀論文賞・優秀編集賞の表彰式をオンライン形式にて行いました。表彰式では、このたび優秀論文賞を受賞されました山本真由先生、優秀編集賞を受賞されました黒川 遼 先生へ、『臨床画像』アワード選考委員会より記念盾を贈呈させていただきました。

『臨床画像』優秀論文賞

「[教育講演]全身のリンパ解剖」

山本真由 先生 (帝京大学医学部 放射線科学講座)

[2024年3月号(vol.40, No.3)特集「JCR50周年企画・JCR・ミッドサマーセミナー2023：基本を学び未来につなげる放射線診療ダイジェスト」に掲載]

このたびは第6回『臨床画像』優秀論文賞という栄えある賞を賜り、誠に光栄に存じます。拙稿「[教育講演]全身のリンパ解剖」は、日常診療で見落とされがちなリンパ管系の理解を深め、若い放射線科医の皆様が次世代の低侵襲治療へつなげる一助になることを願って執筆いたしました。本稿を評価いただき、多くの読者の先生方からご支持をいただいたことは、筆者にとって何よりの励みです。

「リンパ解剖にそこまで興味がある人は多いのだろうか？」——しばしばそう尋ねられます。しかしリンパ系インターベンションに日々取り組んでいると、これまで“見えなかった”あるいは“気に留めなかった”リンパ管の走行や腔内圧の変化が画像上に浮かび上がり、胆嚢の壁がむくむ理由や腸壁・腸間膜の微妙な浮腫など、一見平凡な所見に新たな意味が宿る瞬間に立ち会えます。画像の裏側に隠れていたリンパ動態を読み解けるようになると、診断がより立体的になり、臨床がいっそう楽しくなる——そのワクワク感を共有したいと思い、本稿では最新の知見とともに“臨床で役立つリンパの見方”を盛り込みました。

本研究・執筆を支えてくれた帝京大学医学部放射線科学講座の同僚・技師・看護師の皆様、ならびに解剖学部門の先生方に深く感謝申し上げます。また、本特集号を企画されたJCRミッドサマーセミナーの講師陣、丁寧なご助言と校閲を賜ったメジカルビュー社『臨床画像』編集部の皆様にも厚く御礼申し上げます。

リンパ管イメージングは日進月歩の領域です。今後も教育と研究を両輪とし、臨床に直結する情報を発信してまいります。今回の受賞を励みに、一層精進し、放射線診療の発展に貢献できるよう努める所存です。

最後に、創刊40周年を迎え常に新しい挑戦を続ける『臨床画像』が、読者と筆者がともに学び合える場であり続けることを心より祈念いたします。今後とも変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



『臨床画像』優秀編集賞

特集「『どっちなんだ?!』をはずさないための画像診断の急所」

黒川 遼 先生（東京大学医学部 放射線医学講座）

[2024年6月号(vol.40, No.6)]

この度は大変名誉な賞をいただき、著者の先生方、審査員の先生方、校正～出版までサポートしていただいたメジカルビュー社の皆様に感謝いたします。

本企画は、日常臨床において、いつも2択や3択で苦しむのをどうにかできないか…という悩みを解決できるような一冊になることを願い、各領域のエキスパートの先生方に執筆をご依頼しました。

「どっちなんだ?!」の見分け方のみならず、「エキスパートの先生方でもこの2択は分からないんだ」という、画像診断の限界も同時に学ぶことのできる素晴らしい特集になりました。

おそらく多くの先生方も同じ悩みと戦いながら日々の読影業務に勤しんでおられ、その悩みの解決の一助になるような特集となったことが、今回の受賞につながったものと考えております。

優秀編集賞ということで私が代表で賞を受けましたが、共著者の先生方とのチーム受賞です。本当にありがとうございました。



2025年度も、1年間に本誌に掲載された優秀な論文および特集を表彰するアワードを予定いたしております。今後ともよろしくお願い申し上げます。